



海の向こうから

皆さん こんにちは編集長のキムテツです。ついこの前 2010 夏OB会報を作ったはずなのに・・・ あれからもう半年が経つんですね。広島街にもイルミネーションが点灯し、寒い冬がやってきました。あの暑かった今年の夏が嘘のように感じます。現役隊員の皆様は、それぞれの国でどんなクリスマス、年越しを過ごされますか？
思い出に残る一日にしてくださいね

告知

2011 年も広島県OB会では、イベントが目白押しです。まずは、派遣前・帰国後のイベントのお知らせです。

皆さん、こんにちは。「お帰りの会」担当の坪井です。

坪井 智美さん
H19年度23回生
ドミニカ共和国
日系日本語学校教師



広島県OB会では、新ボランティアの出発時期に合わせて年4回6月、9月、12月、3月に「仕行会&お帰りの会」を開催しています！出発前のボランティアや帰国したばかりのボランティア、OB/OGやJICAの方など様々な人が集い、毎回食べながら、飲みながら、楽しく交流を深めています。この3月にも開催予定ですので、まだ参加したことのない方もぜひお気軽にご参加ください☆

次回の開催予定日：3月14日（月）～18日（金）のいずれか1日

毎回、開催日時が決まったらOB会メーリングリストでご案内しています。こちらチェックしてみてくださいね！！

これまでに何百人もの広島県出身OBを見送り・出迎えて来たイベントです。是非多くの人で祝おうではありませんか。多数のご参加お待ちしております。

また会場として使われて来た広島市中区にあるタイ料理屋サワディー。多くの方がここで熱く語り交流を深めて来たのではないのでしょうか？この皆様の思い出の店が広島から岩国市の米軍基地前へ拠点を移し新たにお店をオープンされます。これまでお世話になってきたOBでもある津森マスター&奥様にメッセージを頂きました。

津森 桂さん
S57年度4次隊
タイ
家畜飼育



Thank you for Soukokuai and coming to Sawadee since 1993.

We'll move to in front of Iwakuni Base in Jan 2011.

We give happiness to American and others by Thai food.

See you in Iwakuni.

お店のホームページ <http://www.sawadee-tuk.com/>

岩国市へお越しの際は、是非新しいお店に足を運んでみてくださいね。

続いて、派遣中の隊員のご家族の意見交換・交流の場として愛されてきた留守家族連絡会が今年も開催されます。色々な話が聞けるので是非、ご家族に連絡してあげてくださいね。きっと皆様の活動に理解を示して帰られることでしょう。担当の久田さん どうぞ

久田 光孝さん
H12 年度 2 次隊
村落開発普及員
パプアニューギニア



はいマイクを受け取りました 担当の久田です。
下記日程で派遣中の留守家族を招いて連絡会をします。

日時:1 月 29 日(土)

(AM 8:00 頃 より準備開始)

場所:留学生会館 (広島駅近く)

OB 達が任国料理を振る舞い、ご家族が「うちの娘(息子)はこんな料理を食べてたんだ!」と盛り上がるイベントです。またご家族の皆さんの自己紹介は、毎年笑いあり、涙ありで大盛況です。自分自身の派遣中は全然気付かなかった「親の思い」も分かります。是非皆さん、得意の任国料理を披露して下さい。もしくは他の隊員の美味しい料理と一緒に楽しみましょう!

先日、サンフレッチェのホームグラウンドである広島ビッグアーチで試合前にサンフレッチェと JICA のコラボ企画が行われました。当日、参加された細川 O B にお話を聞きます

サンフレッチェ JICA コラボ企画

細川光宣さん
H8 年度 2 次隊
木工
パプアニューギニア



行って来ました細川です。9 月 25 日、広島×鹿島の試合開前、広島ビッグアーチで国際協力を紹介するイベントが行われました。これは、サンフレッチェ広島が「なんとかしなきゃ!プロジェクト」の趣旨に賛同し、著名人メンバーに加盟したのを記念するものです。当日、会場には、6 千人のサッカーファンが集まりました。

まず場内大型スクリーン上からサンフレッチェ広島のディフェンダー榎野智章選手(日本代表でもあるトップ選手)のメッセージが流れました。メッセージ動画はこちらから→http://nantokashinakya.jp/tv/messages/message_TomoakiMakino_sanfrecce.html

「僕は広島生まれの広島育ち、広島のが大好きです。」

「65 年前、この広島に原子爆弾が落とされ多くの方が亡くなりました。世界中には今も戦争に苦しんでいる人たちがたくさんいます。僕がプロのサッカー選手としてサッカーに打ち込めるのも平和があってこそだと思っています。」

「国際協力って何か特別なことをしなくちゃいけないってことではないと思います。あなたにできる国際協力を見つけましょう!」

集まった 6 千人に、サンフレッチェ広島の力強いメッセージが伝えられました。

その後中和 O G を中心とした O B 会のメンバーと JICA 研修員がアフリカンダンスを披露し、最後に O B 会長の鈴木マスターから協力隊参加への厚いメッセージが伝えられました。

榎野選手のメッセーを聞きながら、改めて、広島から協力隊を派遣する意味の大きさに気づきました。これからもどんどん広島出身隊員を増やしていきましょう!



スキルアップセミナー

10月24日にスキルアップセミナーが開催されました。どんなセミナーなんですかね？参加された村上さんに聞いてみました。

村上 加枝さん
H16年度2次隊
環境教育
コスタリカ



11月に開催される国際交流の日のイベント行事で行う屋台と帰国発表会の準備のため、「任国の料理文化学習会&プレ帰国発表会」を開催しました。当日は、あいにくの天気でしたが、16名が集まりました。

午前は、料理の作り方の説明の後に、2グループに分かれて、前田貴子さん(11-1 栄養士(グアテマラ))の指導のもと、中米を代表する料理「チリコンカルネ」「タマリンドジュース」を作りました。材料は、牛ミンチ、トマト、ひよこ豆、キドニー豆などをたくさんの調味料で煮ていきます。全ての材料を入れて煮こんだ後に味見してみると、2グループは同じ材料で同じ料理を作っているはずなのに色も味も違う…。前田さんが指導しているチームのチリコンカルネはとても美味しい！私がいたチームは、協力隊(?)ラテン(?)のノリで、なにも考えずに材料を放り込んで煮こんだためか、何とも

言えない味になってしまった。その後、前田さんに味を調整してもらい、見た目も味も少し違う美味しい「チリコンカルネもどき」ができました。

材料の炒め方、順番、そして量で、こんなにも色・味が変わることを改めて実感しました。参加者みんなで、中米料理の作り方を学びながら、協力隊OBの現況報告や意見交換により交流を深めることができ、とても楽しいひとときでした。

午後の部では、帰国発表会のプレ発表を行いました。今回の発表者は、バングラディッシュに村落開発員として派遣された大澤佑実さん、ニカラグアに土壌肥料で派遣された森高千恵さんのH20-1次隊のお二人です。大澤さんは、村での子供教室や環境教室、家計簿の普及などの活動、また、大澤さんは、土壌肥料という専門的な職種として国立大学での分析業務や土壌講習会などの活動を話されました。特に、お二人の任地で苦労したことや任地の人々との交流の話がとても興味深かったです。

その後、発表を経験している協力隊OBから、発表に関してのノウハウやアドバイスをもらい、発表者も本番に向けての準備に有意義なものになったようでした。また、私たち聴講側も、お二人の生命力に満ちたお話を聞いて、自分達が活動していた時の気持ちを思い出し、活力をもらったような気がします。

このような、丸一日の長いスキルアップセミナーでしたが、国際交流の日に向けての準備だけでなく、協力隊OBの絆がさらに深まった一日でした。



国際交流：協力の日

した。参加された神原さんに感想を聞いてみましょう

毎年恒例の国際交流・協力の日が今年も盛大に開催されま

神原 和代さん
H16 年度 1 次隊
理数科教師
ミクロネシア



寒くなるかと思われた予測に反し、穏やかでとても暖かくなったその日、私は協力隊OB会の屋台、メキシコ料理「チリコンカルネ」と「タマリンドジュース」の販売を担当させていただきました。昨年より来客は少なかったようですが、「タマリンドって何？」と聞かれた方が、そっと口にしてみたの味に「あ、美味しい！」と声を漏らしたり、屋台料理を食べ歩いてもうお腹いっぱいの方が、「へえ～これがメキシコ料理なの～」と興味を示し、「今は無理だけど今晚食べたいな、これ持ち帰れる？」と言ってお持ち帰りされたりと、たくさんの来場者の方に楽しんでもらえたのではないかと思います。私は今回が初めて参加で、OB会の料理はもちろん、屋台にでていた韓国やインド、インドネシアなどの料理を美味しくいただくことができ、来場者の方と同様、世界の食を満喫できた一日となりました。



里帰り

をしてきた大下さんにインタビュー

2 年の任期を終え日本へ帰国した多くのOBたちがまた思い出の地へ訪れることを楽しみにしているのではないのでしょうか？ウガンダの地を再び踏むため里帰り旅行

大下 知慶さん
H17 年度 2 次隊
理数科教師
ウガンダ



2007年12月にウガンダから日本へ帰国する際、「必ず戻ってくる」と同僚や子ども達に約束していました。あれから2年がたち、ついに自分はウガンダの地にたちました。子ども達や同僚、近所の仲間達は本当に驚いていました。「お前は約束を守ったな」と。もう一つ、どうしても、この時期までに学校に戻らなければならない理由がありました。自分が4年前に教えた子ども達が、11月で学校を去ることになっていたのです。彼らには住所というものが無く、ウガンダ全土からその学校に泊まり込みで勉強しに来ていたため、一度ちらばってしまうと、二度と会う事ができない状態になってしまうんです。彼らにもう一度だけ会っておきたいという気持ちがウガンダに戻る大きな理由でした。

子ども達は、子どもから大人へ大きく変化していました。背をぬかされ、変声期をむかえ、落ち着いた雰囲気になっていました。ただ、前歯が無い子どもは大人になっても前歯が無く、なつかしのギャグをいうと全員が昔のように笑ってくれ、当時の気持ちに戻ることができました。この再会の旅のおかげで、2年間の活動にやっと終止符をうてたような気がします。彼らの成長を海の向こうからじっと見つめていたいと思います。

<http://www.youtube.com/watch?v=gy0bvscvZUo> ウガンダの旅をムービーにしてみました。

素晴らしい写真が多くありましたよ。是非みなさんもアクセスしてみてくださいね。

出前講座

帰国後の隊員の活動として出前講座と言うものがあります。OBの中には、学校へ出向いてお話された経験がある方やそんなの初めて聞いたよと言われる方もいらっしゃるでしょう。今回は、その出前講座にスポットを当ててみました。実際に出前講座をされた大澤さんに聞いてみました。

大澤佑実さん
H20 年度1次隊
村落開発普及員
バングラデシュ



出前講座については、実は派遣中から知っていました。先輩隊員から、自分の任国での活動を日本に帰ってから話せる機会があるんだよと聞き、そのときから私も帰国したら是非やりたいなと思っていました。出前講座できっちり話せるように自分の活動を充実させて、また色んなことを感じて帰らなければいけないな、と思ったことを覚えています。

そして帰国後、何回か出前講座をする機会をいただいています。初めは、あれもこれも言いたいことが多すぎてうまくまとめられなかったのですが、少しずつ本当に自分が伝えたい想いをしっかりまとめて表現することができるようになってきたかなあと思います。



私は出前講座を通して、バングラデシュで感じた人々の心の豊かさを皆に伝えたいと思い“愛と勇気を持って一歩前へ、人と繋がっていこう”というメッセージを送っています。

嬉しいのは、出前講座を聞いてくれた方々が「自分の生活を見直そうと思った」とか「泣きそうになった」という感想を寄せてくれることです。そのような感想を聞くと、ああ、何か少しは伝えることが出来たのかな、とほっとします。また、私の体験談を聞いて協力隊に興味を沸かしたという方が相談に来てくれることもあり、きっかけになれるとしたらとても光栄だなあ、と思います。

これからも、協力隊経験から頂いた沢山の貴重な体験や想いを、1人でも多くの人に話していきたいと思っています。

OB紹介

このコーナーでは、日本で活躍中の協力隊OBの方に登場していただきます。帰国後3年以上経たれている方にスポットを当て、現在派遣中の隊員が心配している「帰国後」に迫ります。

1. お名前は
2. どちらに派遣されたのですか？
3. 隊次は？
4. 職種は？
5. 派遣中はどのような仕事を？
6. 派遣前の職業や簡単な経歴を教えてください
7. なぜ行こうと思いましたか？

柿本みさです。
ホンジュラス共和国です。
16年度3次隊です。
エイズ対策です。



赤十字プロジェクトでの高校生へのエイズ予防教育。リーダーを育成し、ねずみ講的に受講者を増やし、将来のHIV感染を予防する知識や技術を持ち、実践できる若者を増やす。地方公務員のあと、看護師を4年していました。

もともと「人の役に立ち、利潤を追求しない職業につきたい」と思い、公務員になりました。でもずっと役所の中にいて、あまり人の役にたつ気がしなかった。そして、直接的に「ありがとう」といわれる、何か専門的な仕事がしたくて、看護師になりました。

でも、最近思うのはどんな形でも、仕事は社会のひとの役に立っているということで、公務員のときはそれがわからなかったんです。

外国で働きたかった。あと、病院を離れて、健康な人と働きたかった(笑)。でも、健康な人への予防教育は、予想以上に難しかったです。健康な人は、興味ない分野の話聞きに来てくれないし、予防の効果は目に見えにくいので、人集めが大変でした。

8. 行ってみたいの感想

経済的な豊かさと人間的な豊かさは違うことをホンジュラスの生活を通して実感しました。向こうで受けた「無条件の優しさ」は私の価値観を一変させ、ソウイウヒトニワタシモナリタイ、と思っています。

9. 帰国後の職業（現在）

看護師・助産師

10. お仕事にボランティアの経験が生かされましたか？

ホンジュラスで学んだことをどう仕事にいかすかを帰国後考えて

います。自分が受けとった、向こうのひとのポジティブさや明るさや優しさをかかわりの中で出していきたいです。特に、ひとの優しさは、それを受けた人を変える力を持っていると思います。自分を大切にしようと感じたり、生きる力をくれたりなど、自分で治る力が強くなり、自分の人生を生きていく力につながる。それを信じて、かかわる人に、丁寧に、優しくありたいと思っています。

11. 派遣中のシニアにアドバイスを

先に帰国した先輩から「帰国するとすべてよい思いで」と言われていたのですが、それは本当でした。つらいときは上り坂、というのも本当。帰ってきたら、何かが自分を大きくしてくれていますよ。身体に気をつけて、無事に日本に帰ってきてください！

12. 帰国後、任国へ遊びにいかれましたか？

行きたいけど、行ってないです。

なんだか親不孝をしている気分です。



パラグアイからのお便り

世界各地に派遣されている現役協力隊員の皆さんに現地からの声を聞かせてもらうコーナー。今回は、パラグアイに派遣中の松田尚子さんにお願ひしました。

松田尚子さん
H22 年度1次隊
小学校教諭
パラグアイ



広島県OB会のみなさん、はじめまして！

私は、現在パラグアイ共和国に派遣中の松田尚子といます。任国に来てから5カ月が過ぎたところです。

私の任国、パラグアイは、ちょうど日本の裏側、季節も時間も真反対です。日本からの距離が遠く、航空便が少ないなどの理由で、日本を出てからパラグアイに着くまで何と36時間もかかりました！着いた時は、「やっと着いた！」という喜びでいっぱいでした。パラグアイ人の印象は、“肉”が好き！誕生日、何かのお祝い、毎日曜…炭焼きのお肉「アサド」をとにかくよく食べます。おいしいんですが、その反動できっちり体に肉が付いています。



そして、任地で感じる人々の印象はとて“親切”だということです。体に付きすぎた肉を落とすためによく散歩をするのですが、知らない人でも気軽に話しかけてくださいます。時には、レタスやみかんをいただくことも。この間は、全く知らない町へ出かけると、その子どもたちが家に呼んでくれ、ご飯をいただき、町を案内してくれ…。温かさを感じています！

そんな任国で小学校教諭として毎日元気な子どもたちと戯れながら活動しています。今は、算数の教材を作ったり授業を観察したりしています。テストのときに「教えて！」と言って来た子どもを断ると悪者呼ばわりされ、それがもとで子どもと本気でけんかしたことも…。休憩時間に紹介した“なわとび”が子どもたちに大人気で、任国に来てから一

番成果を挙げている活動です（※要請は“算数教育”です…）。

今後も、たくさんの人と出会って、現地の人と楽しみながら活動を進めていきたいと思います！

さあ、次号はどこのお便りが届くかな。派遣中の皆様からのお便りお待ちしております。

派遣前アンケート

年4回派遣となり3ヶ月に1回のペースで続々と派遣されています。今回は22年度2次隊の皆さまに派遣前の意気込みを聞いてみました。（壮行会に参加されてアンケート提出があった方のみ掲載しています。）

名前	職種	派遣国	応募したきっかけ	訓練所の思い出	今の心境	2年間の意気込み
村上やよい	美術	シリア	知り合いが協力隊OBで話を聞いて「美術」という分野があることに感動して応募しました。海外の美術を見てみたいという気持ちも強いです。	班のみんながとても親切で気さくで大好きになりました。素晴らしい関係を築くことができました。	忙しい忙しい忙しい。準備が間に合うか心配です。	苦しい事、楽しい事があると思いますが、「一日一歩」大きく一歩小さく一歩自分らしく嘘は付かず大好きな美術を大切に人生の中での2年を大切にしたいです。
茂木良寛	村落開発普及員	フィジー	自分の力を試してみたかったこと。単純に人に喜んでもらえることがうれしいこと。海外で働くことに非常に興味があったことがきっかけ	志が同じ仲間と勉強出来た事	簡単ですが期待と不安がいっぱいです。	I' ll do my best

森野晴奈	小学校教諭	ガーナ	教員採用試験が不合格だったのでダメもとで応募しました。でも協力隊が自分の一番やりたいことと近い形だと思ったので良かったです	キツかったけど充実した語学クラスと班のみんなや任国仲間との何気ない日々が本当に楽しかったです	早く行きたい	謙虚にゆっくり自分らしく
服部美樹子	村落開発普及員	フィリピン	大学のときから海外での農村開発に興味があり現場で働きたかったからです。	毎日が楽しすぎて「一番の思い出」って難しいです。生活班の皆と週1回のワークショップに苦しんだ事が今となっては良い思い出です。	とても楽しみで、早く行きたい気持ちでいっぱいです。OBの方の話を聞いて、今まであった不安もほぼ0になりました。行ってきまします。	とにかく、楽しく元気でフィリピンにとけ込んで来たいです。

編集室から

半年に一度の大仕事を終えてホッとしています。編集に協力してくれたOBの方々ありがとうございました。これからもたくさんの隊員・OBを紹介していきたいと思います。白羽の矢がたった方は、ご協力お願いしますね。また任国での面白エピソード・活動紹介、活躍されているOB紹介（自薦・他薦は問いません）などお待ちしております。

投稿・ご意見・ご要望は、こちらまで↓

hiroshima_jocv_obkai@yahoo.co.jp（OB会メール）

or lifetetsu@hotmail.com（編集長直接メール）

編集長：木村 哲也

（17年度3次隊 ホンジュラス 建築）

編集室所在地：広島県東広島市

木村哲也建築デザインオフィス内

